



国労東京支部

2022年12月8日

第35号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

要員不足・低賃金 第1回拡大分会長会議開催 切実な要求から闘いを構築しよう

国労東京支部は12月2日、地本会議室において第1回拡大分会長会議を開催した。①組織強化拡大の取り組みについて②2023春闘について③労働条件改善の取り組みについて④その他、大きく分けて4点について支部から提起をし、全体で確認した。以下、仲間の発言を中心に報告する。

組織強化拡大の取り組みについて

▶こここのところ物価高で多くの国民が困っている。各地でいろいろな集会があり私も参加しているが、そのような集会に職場の若い子を誘って見たらどうかな、と考えている。

2023春闘について

▶物価高問題とリンクさせて来年の春闘を闘うべき。▶低賃金の中でみんな働かされている。基本給から時給を割り出すと、最低賃金以下で働かされている人もいる。これはおかしいと思う。

▶話し合いの中でよく、「僕らはいいんだけど若い人は考えた



ほうがいい」と言ってしまうが、もう一度我々も怒りを持って取り組むべき。▶社員食堂も値上がりし、量も少なくなった。若手にとっては大打撃だ。こういった切実な問題からの賃金闘争をしてほしい。▶制服も変わり、すぐほつれたりする。作業時に使用する保護メガネも支給されなくなり、自分のメガネを使ってくださいと言っている。壊れたら一回は会社が買ってくれるが、それ以降の保証はない。いろいろな部分で我慢させられている。こうした部分も含めての要求を。▶エルダーのボーナスは新入社員より安い。要は都市手当が入らないからである。会社「これでまともに働けますか」と問うた。

労働条件改善の取り組みについて

▶分会として2カ月に1回集会を開き、職場の問題を話し合っている。集まりはよい方だと思う。▶新宿のSCSPの詰所は、テレビもない飲み水もないなど、ひどい環境だ。会社に言ってもなかなか改善されない。車イス担当の組合員が3回ミスをして、他の職場へ飛ばされた。面談で本人は残りたいと言っていたにもかかわらず、本人の意向を無視しての配転があった。▶池袋JESSでもクレマーから苦情を受けた組合員が我孫子遺失に配転となった。会社が旅客に謝罪しろ、と言ってきたが本人は悪くないので謝罪を拒否したところ飛ばされた。何も悪くないのにおかしいのではないかと。▶設備系は事故が多発している。いったん事故が起これば労働者個人のせいにする。問題にしなければいけないのは事故が起こる背景であり、作業にゆとりがあるか、人数は足りているかをしっかり検証していかなければならない。職場に労働組合がないと、なかなかそういう議論にならないが、少しずつ意見を言っていきたい。▶東京駅で50人がコロナ感染し、クラスターではないかとも思える事象があった。仲間の奥さんが熱を出していても、会社から仲間に連絡も来ない。仲間は東京駅に「なぜ連絡もできないんだ」と抗議した。

多くの職場で要員不足の問題が出されている。国労として「必要な要員を配置しろ」との声を上げていく必要がある。支部としても職場の声を掴み、必要であれば上部機関へあげていく。